

## —平包形式（風呂敷系）について—

聖和学園短大 中村 恭子

1 われわれが物を携行，または保存する場合用いるふくろ物には，ふくろ形式のものと平包形式のものがある。この平包形式のものを現在は風呂敷と称しているが，その形状，名称，使用法などいかなる変遷を経てきているのであろうか。

2 これについて遺物（正倉院，東京国立博物館，伊達家のもの）と文献（大日本史料，日本古典文学大系，日本随筆大成，群書類従，燕石十種，続燕石十種，近世風俗見聞集，貞丈雑記，近世風俗志女用訓蒙図彙など）および絵画（日本絵巻物集成，日本絵巻物全集，日本風俗図絵，錦絵など）を合わせ考察してみた。

3 平包形式は物を包む始源の形式で，つつむという語がそのまま名詞となり，平安時代中期まで「つつみ」と称されていたのである。生活文化の進展はその名称をも展開させつつ，やがて江戸時代には風呂敷と称せられるにいたるのである。

以上のものはその形状，使用法についてみるに今日のごとく固定的なものではなく，用途に応じた考慮がはらわれているなど，興味ふかいものがある。